



の仏像彫刻や仏画、書跡や絵画が展示されています。書跡では、国宝の弘法大師、伝教大師の書が展示してあります。一二〇〇年前に書かれた字が、その時のまま見られる

昨年十二月、京都へ行きましてのことです。予定より早くに仕事が終わり時間が空いたので、京都国立博物館へ行ってみました。受付で尋ねると、きょうは通常展とのこと。特別展示はないということでした。しかし折角来たので入ってみると、さすがに国立博物館です。たくさん

念仏の足跡

信楽晃仁

安楽寺寺報

聞光

第74号 涅槃会号 2015/2/15

発行所 〒737-0054 呉市上山田町2-28 安楽寺 0823-21-7561

のですから感動ものです。また親鸞聖人真筆の教行証文類(坂東本)、法然上人の消息もありました。一〇〇〇年もの長きにわたり、よくもまあ残ったものだと感じました。またこれらの書跡がどれ程の人の心を動かし、どれ程の人がこれによって救われたことか、と思うと、自然と手が合わります。この度、和食に続き和紙が無形文化遺産に登録されました。これは日本人の優れた手漉き和紙の技術が登録されたのだそうです。日本人の知恵と技術によるものづくりがあればこそ、一〇〇〇年変わらぬ紙を作り、おかげでこの書が残る、後世の人々を導いたのです。

この日は、日の出を撮るために夜明け前に嵐山へ行きました。日曜日の嵐山でも早朝は人が少なく、とても澄み切った空気です。最近では写真を撮ることに楽しみですが、写真から、学べることも多く、勉強にもなります。あるプロのカメラマンが「同じものにも、様々な顔がある。夕日に照らされたり、朝日に照らされたりといった時間によって表情は変わり、どの角度から撮るかによっても全く違った写真が撮れる。同じような写真しか撮れない人は想像力も足りないし、何より周りが見えてない。」

と書いていました。またあの記事には「最近は何人か道歩き時、イヤホンをして携帯をいじっている。とてももったいない話だ。」



空を見上げてみると、星が綺麗でちよつと楽しく嬉しくなったり・・・。それだけでなんだか自分が豊かになったような気がします。また、夜遅くまで電車を動かしてくる車掌さんに目が向いたり、夜中でもコンビニに商品を運んでくれているお兄さんが目に入り、今まであまり見えていなかったことに気づき感謝の気持ちが出てきます。こうして普段から少し周りを見ることや、視点を変えることで、ちよつとしたことに感動したり感謝したりして、毎日の生活がより楽しく豊かになると思っています。

ひかい幼稚園の仏参

2月の仏参の様子です。子ども達がのこの様を大切に思い、しっかりとこの様のお話も先生のお話も聞くことができるようになってきました。今回は「蜘蛛の糸」の絵本を先生が読みました。一所懸命聞いている姿が、とてもかわいくて、うれしくて、そつと写真を撮りました。



←年長さんがお手本です。

ももぐみさんも→上手にできます。



←年長さんのお勤めは堂に入っています。

すみれ組さんも絵本に聞き入っています。



編集後記
イスラム国と名乗る過激派組織による蛮行によって、世界中が混乱しています。また他の地域でもテロが頻発しています。日本も今年からはオウム真理教の事件から二十一年の年になるのに、未だにオウム真理教の流れをくむ団体には集まっているようです。テロが生まれる土壌には、何があるのか検証が必要ですが、私の中では前任職の言う「一元論と二元論」「パワーが教える」と言ったことがヒントになるのではないかと考えています。もっとよく聞いておけばよかったと後悔の日々です。

安楽寺マンガ通信

その27 信楽めぐみ作

三回生になり就職活動が始まりました。



働くことに慣れたらいいな。自分の生活も自分でまかせたい。みんなが協力して、社会がよくなるように。

キャリアセンターの人

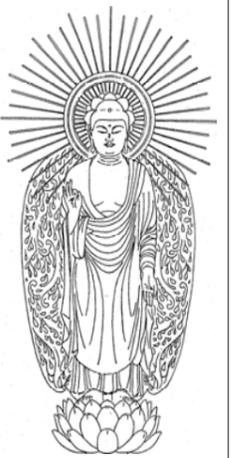


働くことに慣れたらいいな。自分の生活も自分でまかせたい。みんなが協力して、社会がよくなるように。



就職活動の中で、私の生活はもろもろのことで、社会もそれぞれの働き方でまわっている。それが欠けても駄目です。人間関係も同じように大切にしたいです。





きていくことを宣言された足跡ではないかと思えます。そこで思う

仏像も様々なものがありました。十一面観音や千手観音、また僧侶の顔を破って中から仏像が出てこられているという、奇抜な仏像彫刻もありました。

その中、一番目をひいたのが、一体の阿弥陀仏像です。この仏像はずつと滋賀県の真言宗玉桂寺に安置されていましたが、四年前の法然上人八〇〇回忌の時に、浄土宗の知恩院に遷座されました。というのは体内からこの仏像の造立願文が見つかり、そこに、この仏像は法然上人の弟子、源智上人が、法然上人の一周忌に向けて造立されたものであることが判明したからです。そして一緒に体内から四万六千人というたくさんの方の名前が書かれた、結縁交名が出てきたそうです。

法然上人は一二二二年の一月二五日にご往生されました。今から八〇三年前のことです。その時代、多くの方々が法然上人のお伝えくださったお念仏の教えにあわれ、それを大切に受け止め、この教えによって生

きていくことを宣言された足跡ではないかと思えます。そこで思うことです。さて、私たちは何をどう受け止め、何を残していくことが出来るのだろうか。ありがたくも私たちは先祖から、この念仏の教えをとにもかくにも受け取ることができました。それは私たちの先祖が大切に私たちに伝え残してくれたからです。私たちはどのような形で、子孫に念仏の大切さを伝え残していくことができるのでしょうか。

たのだそうです。その様子を息子さんから伺い、深く心に響きました。また、高齢で認知症が進み、一人での生活は難しくなられた、お父さんが施設に入られたそうです。そのお父さんは、いつもお念仏を申されていたそうです。普通の会話が難しくなってもお念仏ははるのだそうです。ある日施設にお見舞に行ってみると部屋で正信偈をお勤めしておられるそうなんです。びっくりして、職員にいうと、いつものことだと職員は驚く様子もない。我が娘のこともわからなくなり、今までのことをどんどん忘れてしまいう中でも、念仏と正信偈が残っていることがわかり、うれしかったと、お話しくださいました。

の来訪者にもそうしておられました。私たちの先祖や先輩には、念仏を身につけた人がいらっしやいました。私たちはいざというときに、何を頼りにし、何を持って逃げるのでしょうか。家族がわからなくなった時、どんな言葉を発し、何をするのでしようか。わが身が恐ろしいことですが、親鸞聖人は「凡夫といふは、無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおほくひまなくして、臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と言われます。最後まで凡夫は何が出てくるかわかりません。しかし望みは「人は生きたいようにしか死ねない」と前住職が常々口にしていた言葉です。世間のことがわからなくなっても、口に念仏を称え、正信偈を勤め、身に合掌礼拝をする事ができる人の、心はどこに向かうのでしょうか。私の今が問われているように思うのです。

※1遷座 〓 仏様が座を移られること

※2結縁交名 〓 縁を結んだ人々の名簿



私たちにはそうした先達がいらっしゃることをありがたく、尊敬すると共に、そんな人になりたいと思うのです。

もみじのおくりもの 信楽徳子

先日、ひかり幼稚園のももぐみのゆきちゃんがお父さんの転勤で幼稚園を転園していきました。

そのゆきちゃんが大好きなものが紅葉の葉っぱでした。お帰りのバスを待つとき決まって「先生、もみじの葉っぱある？」と探してほしいよとねだってきます。「もう冬だしね、もみじの木にもはっぱは一枚も残ってないよねー。」といいながらも、バスを待つ間「小さい秋みつけた」のうたを口ずさんでいます。冬なのに：。そんな姿をみるとなんとか探してあげたくなり：。もうないよなと思いつつながらも庭のすみを探して、はっぱがあった時はうれしそうに大事そうにもつて帰ります。

幼稚園も今日が最後の日、「先生葉っぱある？」さすがにもうないよなと思いつつ探すと、庭のさつき根もとに一枚ありました。「よかった。ゆきちゃん一枚あったよ」とわたしと嬉しそうに持つて帰っていきま

した。ゆきちゃんが幼稚園をかわって

てから少したったある日、いつもゆきちゃんと一緒にバスに乗って帰っていたゆきちゃんが「先生、もみじのはっぱある？」と私にはなしかけてきました。私は、さきちゃんも、もみじのはっぱがほしかったのかと感じて、「さがしてみるね」といつて庭を散策しにいきました。ゆきちゃんが毎日のようにもつて帰ってたし、季節はもう冬。どうだろうかとさつきや、松の足もとなどみてまわりましたがなかなかみつけない感じができません。あーやっぱりないかなと思つてあきらめかけたとき、庭石の石の間にたった一枚、もはや紅色ではない茶色になってしまったもみじの葉っぱをみつけることができました。よかったです。さきちゃんにあげられるわと思つ、「さきちゃん、もみじのはっぱあったよ」とこやかで、かわいらしいことや、愛想わたすと、さきちゃんが「先生、ゆきちゃんからのがみだね・・・ゆきちゃんからのがみきたね」と嬉しそうに言ったのをきいて、そうかさきちゃんは、ゆきちゃんが大切にしていたものでゆきちゃんを思い出してたんだなと感じた



せん。

善い中の仏教語

『愛敬・愛想』

「男は度胸、女は愛嬌」とか「愛嬌をふりまく」など、愛嬌といえ、こやかで、かわいらしいことや、愛想のよいことを意味する言葉として知られています。

この愛嬌は本来「愛敬」と書き「あいきょう」と読んで、仏教語でした。愛しみ、敬うことを意味したのです。仏や、菩薩の容貌は温和で慈悲深く、拝む人たちが愛敬せずにはおられない

安楽寺法要案内			
三月	彼岸会	日時 3月14日(土) 講師 坂 西林寺 河野行昭師 講題 本当の幸せ～遺弟の自覚～	
四月	花まつり	日時 4月11日(土) 朝席・昼席 講師 吾妻 明法寺 熊谷純行師 講題 浄土真宗の生活信条に学ぶ	
五月	降誕会	日時 5月17日(日) 朝席・昼席 講師 広島市 法光寺 築田哲雄師 講題 信心は体験である	
六月	永代経	日時 6月13日(土)・14日(日) 講師 岡山 浄福寺 山下義円師 講題 「救われる」とは どういうことなのか	

相を表しておられるので、その相を愛敬相といえます。愛敬は、その愛敬相から来たものなのです。

また、「愛想がよい」とか「愛想が尽きた」などと使われている愛想という語も、本来は「愛相」で、そのもとは同じ愛敬相から出た語のようです。同じ愛敬相から愛敬と愛相とが生まれ、それが愛嬌と愛想とになっていったようですが、いずれも、もとは仏さまのお顔の相だったのです。